

2017年3月期 第3四半期決算補足資料

I.説明要旨

- ◆ 2017年3月期第3四半期(10月～12月)は連結売上高20,725百万円(前年同期+972百万円)、連結営業利益581百万円(同+709百万円)と増収増益となったものの、今期累計(4月～12月)では連結営業損失512百万円の実績。
- ◆ リユース店舗事業において秋口から行ったセール施策やコスト削減推進による業績回復効果も第1～2四半期の遅れを補うまでには至らず、ブックオフオンライン事業、ハグオール事業においても当初売上計画に対し未達の状況。
- ◆ 過去の業績及び今後の業績見通しを踏まえ、繰延税金資産の一部を取り崩し。法人税等調整額521百万円を計上。
- ◆ 上記の傾向を踏まえ2017年1月27日に業績予想の修正を公表。2017年3月期通期業績は、営業損失並びに親会社株式に帰属する当期純損失となる見通し。

II.連結損益

2017年3月期1Qより報告セグメントの区分を変更しております(「パッケージメディア事業」を「その他」に統合)。
下記の2016年3月期3Qのセグメント別実績は、変更後のセグメント区分に組み替えたものです。

単位:百万円

科目	2017/3期3Q	構成比	2016/3期3Q	構成比	前期差	前期比
売上高	59,995	-	56,060	-	+3,935	107.0%
リユース店舗事業	52,583	87.6%	50,328	89.8%	+2,254	104.5%
ブックオフオンライン事業	4,798	8.0%	3,988	7.1%	+810	120.3%
ハグオール事業	1,553	2.6%	626	1.1%	+926	248.0%
その他	1,060	1.8%	1,117	2.0%	△ 56	94.9%
売上総利益	35,219	58.7%	33,624	60.0%	+1,594	104.7%
販売管理費	35,731	59.6%	34,104	60.8%	+1,627	104.8%
営業利益(損失)	△ 512	-	△ 480	-	△ 32	-
リユース店舗事業	1,029	-	1,279	-	△ 250	80.4%
ブックオフオンライン事業	220	-	124	-	+95	176.9%
ハグオール事業	△ 163	-	△ 378	-	+215	-
その他	△ 67	-	△ 48	-	△ 18	-
調整額(全社)	△ 1,531	-	△ 1,456	-	△ 74	-
営業外収益	585	1.0%	615	1.1%	△ 30	95.1%
営業外費用	192	0.3%	180	0.3%	+12	107.0%
経常利益(損失)	△ 119	-	△ 44	-	△ 75	-
特別利益	-	-	72	0.1%	△ 72	-
特別損失	287	0.5%	164	0.3%	+123	175.4%
税金等調整前当期純利益(損失)	△ 407	-	△ 135	-	△ 271	-
法人税等	691	-	282	-	+409	244.8%
親会社株主に帰属する当期純利益(損失)	△ 1,099	-	△ 418	-	△ 680	-

【売上高】

□グループ全体

- ・リユース店舗事業、ブックオフオンライン事業、ハグオール事業がそれぞれ増収となり、連結売上高は前年同期を上回った。

□リユース店舗事業

- ・新規大型店の出店やFC加盟店の受管に加え、既存店売上高が前年同期を上回ったことにより増収となった。商材別では主力商材である書籍・ソフト・アパレルが伸び悩んだものの、家電や携帯電話などの新規商材が上乘せされたことが増収に寄与した。

【営業損失】

- ・ブックオフオンライン事業が増益、ハグオール事業においても赤字幅縮小となった一方で、リユース店舗事業において前期に実施した店舗パート・アルバイトスタッフの人員拡充による人件費増加などに対しコスト構造の見直しを行ったものの、主力商材である本・ソフト・アパレルの伸び悩みにより、連結営業損失となった。

【親会社株主に帰属する当期純損失】

- ・経常損失及び減損損失等の特別損失の計上に加え、繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額521百万円を計上することにより、親会社株主に帰属する当期純損失となった。

III.既存店実績(リユース店舗事業)

●四半期別前期比(直営店・国内)

		1Q	2Q	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期
リユース店舗事業既存店	売上高	102.4%	99.6%	101.0%	100.3%	100.7%		
	売上客数	95.8%	94.2%	95.0%	94.2%	94.7%		
	仕入高	108.9%	105.5%	107.2%	100.8%	105.0%		

●商材別売上高・仕入高実績(直営店・国内)

商材名	売上高				仕入高			
	3Q期間		累計		3Q期間		累計	
	前期比	構成比	前期比	構成比	前期比	構成比	前期比	構成比
書籍	94.4%	32.2%	94.2%	34.7%	98.1%	24.9%	97.3%	24.9%
音楽	91.1%	7.3%	93.1%	7.7%	106.7%	7.4%	103.5%	7.3%
映像	91.7%	9.3%	97.1%	9.9%	99.8%	11.4%	104.6%	11.6%
ゲーム	96.0%	12.5%	97.0%	12.4%	106.6%	18.4%	106.6%	18.9%
トレーディングカード・ホビー	126.8%	5.0%	126.2%	4.9%	116.9%	5.3%	127.4%	5.1%
家電・携帯電話	153.5%	6.4%	178.8%	6.4%	82.7%	6.9%	130.7%	8.4%
アパレル	99.9%	15.9%	99.3%	13.8%	106.5%	13.6%	104.2%	11.5%
貴金属・時計・ブランド	121.2%	6.2%	106.7%	5.4%	99.5%	7.8%	102.1%	8.1%
その他	98.2%	5.2%	101.1%	4.8%	91.1%	4.3%	94.9%	4.2%

IV.新規出店・リパッケージ

区分	店舗名	店舗パッケージ	OPEN	所在地	売場面積
新規出店	307号枚方池之宮店	BOOKOFF SUPER BAZAAR	4月7日	大阪府枚方市	1,100坪
	286号仙台鉤取店	BOOKOFF PLUS	4月21日	宮城県仙台市	352坪
	西友高針店	BOOKOFF SUPER BAZAAR	4月28日	愛知県名古屋	744坪
	西友鳴海店	BOOKOFF SUPER BAZAAR	5月26日	愛知県名古屋	863坪
	ショップス市川店	BOOKOFF SUPER BAZAAR	6月2日	千葉県市川市	737坪
	アクロスプラザ佐世保店	BOOKOFF SUPER BAZAAR	6月16日	長崎県佐世保市	758坪
	42号松阪久米店	BOOKOFF	7月14日	三重県松阪市	161坪
	八王子東急スクエア店	LU(アパレル販売専門店)	10月19日	東京都八王子市	33坪
	Jalan Jalan Japan One City店	Jalan Jalan Japan	11月18日	マレーシア	650坪
	西五反田店	BOOKOFF PLUS	6月23日	東京都品川区	296坪
リパッケージ	河原町オーパ店	BOOKOFF PLUS	7月27日	京都府京都市	301坪
	和歌山国体道路店	BOOKOFF PLUS	8月4日	和歌山県和歌山市	297坪
	甲府下石田店	BOOKOFF PLUS	9月8日	山梨県甲府市	204坪
	荻窪駅北口店	BOOKOFF PLUS	9月14日	東京都杉並区	217坪
	町田旭町店	BOOKOFF PLUS	10月27日	東京都町田市	324坪

※上記のほか、FC加盟店において「BOOKOFF PLUS」1店舗を新規出店、「BOOKOFF」1店舗を「BOOKOFF PLUS」にリパッケージ

V.通期業績見直し

単位:百万円

科目	2017/3期	構成比	2016/3期実績	構成比	増減額	増減率
売上高	80,000	-	76,564	-	+3,435	4.5%
営業利益(損失)	△ 400	-	△ 530	-	+130	-
経常利益	0	-	5	0.0%	△ 5	△100.0%
親会社株主に帰属する当期純利益(損失)	△ 1,300	-	△ 528	-	△ 771	-

※2017年1月27日に通期業績見直しの修正を公表しています。

VI.業績見通しの修正について

■通期連結業績見通しの修正について

単位:百万円

科目	'16/5/10 発表予想	'17/1/27 発表予想	増減額	要因
売上高	85,000	80,000	△ 5,000	リユース店舗事業、ブックオフオンライン事業、ハグオール事業の全セグメントでの売上計画未達
営業利益 (損失)	800	△ 400	△ 1,200	売上高及び売上総利益の計画未達に対し、コスト削減に努めたものの、上期の遅れを取り戻すには至らず
経常利益	1,300	0	△ 1,300	営業利益の計画未達に伴う下振れ
親会社株主に 帰属する当期 純利益(損失)	350	△ 1,300	△ 1,650	経常利益の計画差に加え、繰延税金資産の取り崩しに伴う法人税等調整額521百万円の計上の影響

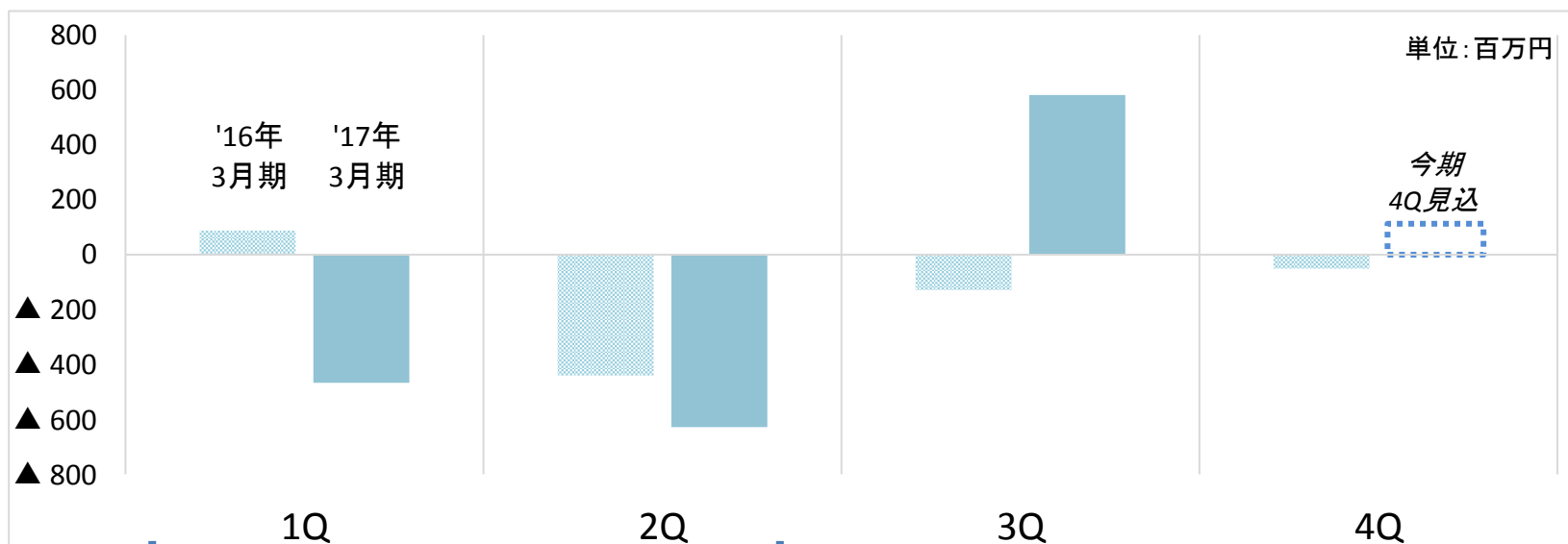
■今期アクションの進捗評価

セグメント	項目	評価	内容
リユース 店舗事業	既存商材 (書籍・ソフト・アパレル)	×	【既存店商材別売上高前年比】 ＜書籍・ソフト＞計画 100% → 実績 書籍93%、ソフト96% ＜アパレル＞計画 104% → 実績 99% 売上構成比が高く且つ粗利率の高い書籍・アパレルの不調が事業全体の売上総利益率の低下要因となった。
	中古家電	△	【商材別売上高構成比】計画 7% → 実績 6%強 仕入・売上ともに前年より大幅に増加したものの、認知拡大に課題あり。計画達成には至っていない。
	大型複合店舗 の出店	○	【直営大型複合店舗新規出店数】計画 6店 → 実績 6店 大型複合店を計画通り出店。そのほか新形態であるLU(アパレル販売専門店)の出店やマレーシア進出も実施。
	コストコントロール	△	前期に大幅増員した人件費負担などが上期の大きな減益要因となる。下期より仕入・売上水準に応じたシフト数へ適正化。その他間接コストの見直しなど、計画したコスト削減策を実施した。
ブックオフ オンライン 事業	サイト改善	○	PC・スマホ双方のサイト改善を継続的に実施。ブックログの書評レビューも閲覧可能となり検索性・利便性が大幅に向上。
	倉庫効率化	△	倉庫増床に伴う在庫増加に対し、ピッキング作業の効率化や一部作業の機械化を実施。一定の効果はあったが課題が残る。
	店舗との在庫連携 による売上増	×	リユース店舗事業の商品充実を優先したため、想定した入荷量を確保できず、売上高が計画に至らなかった。
ハグオール 事業	物流倉庫移転	○	6,000坪規模の大型物流倉庫への移転を計画通り実施。
	仕入拡大	×	【チャンネル拡大】→△ 百貨店内総合買取相談窓口:○(計画以上の新規開設数) ロッカー型買取:○(日本郵便との連携実施) イベント買取:×(実施数が低調に推移) 【買取量】→× 各チャンネルにおける買取量が想定を下回る。
	売上拡大	△	【チャンネル拡大】→○ 従来のEC、BtoB販売に加えアパレル販売専門店「東京古着」をショッピングモール内などで積極的に展開。 【販売量】→× 買取量不足による商品不足により想定を下回る。

VII.収益性の改善状況について

■連結営業利益(四半期間別)の推移

連結営業利益 四半期別前年比較

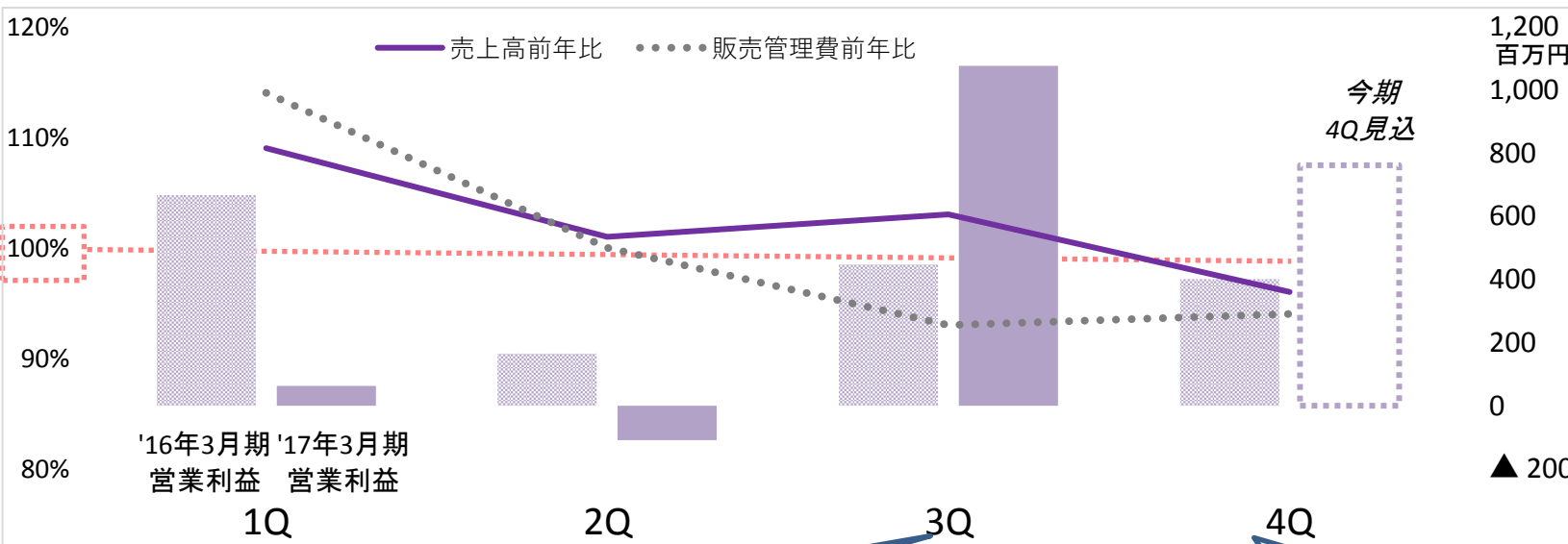


リユース店舗事業において前期に実施した人員拡充による人件費増加に加え、書籍、ソフトメディア、アパレルの主力商材が低調に推移したことが主たる要因で、第1四半期、第2四半期は減益となった。

リユース店舗事業において今期10月から人件費を中心にコスト見直しを積極推進。追加のセール策実施による収益改善に加え、ハグオール事業の赤字幅縮小も寄与し、第3四半期は大幅な増益となった。

■リユース店舗事業の業績推移

リユース店舗事業 売上高・販管費前年比(左軸)、四半期間営業利益(右軸)推移



10月以降の積極的なコスト見直しにより第3四半期は販売管理費が前年同期を下回り大きく増益。店舗において利益を算み出しやすい体質へと回復した。

第4四半期は例年繁忙期にあたるが、今期は売上占有率の高い本・ソフトの商材の低迷により売上予測が弱含みであること、積極的なセールの影響による粗利率の低下から1月～3月の利益の伸びは限定的と予想。